

平成31(2019)年度 日野市立七生緑小学校 学校経営方針

平成31年4月1日
校長 大和田 邦彦

I 平成31年度日野市教育委員会教育課程編成基本方針(概要)

日野市の教育施策	国・東京都
<ul style="list-style-type: none">○「学びと育ちの日野ビジョン」(日野市総合教育大綱)○第3次日野市学校教育基本構想(日野市 未来に向けた学びと育ちの基本構想 2019~2023年度)○第4次日野市特別支援教育推進計画	<ul style="list-style-type: none">○新学習指導要領全面実施に向けた移行措置 (小学校:~平成31年度、中学校:~平成32年度) ・各教科等での移行措置を踏まえ全体計画・年間指導計画作成○東京都教育施策大綱・東京都教育ビジョン○特別支援教育推進計画(第二期)第一次実施計画
すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力	
平成31年度教育課程編成のポイント① すべての“いのち”を守り、育む	平成31年度教育課程編成のポイント② 一人一人を大切にした多様な学び
<ol style="list-style-type: none">1 “いのち”を守り、輝かせるための取組の充実2 学校を核とした組織的な子供たちへのサポート体制3 子供の安全・安心を守り、豊かな心を養う指導の充実	<ol style="list-style-type: none">1 一人一人の学びの充実に向けた取組2 「すべてを包み込む教育」の充実3 子供たちの主体的な学びを支える教育活動の充実
平成31年度教育課程編成のポイント③ 地域をステージにした教育活動	
<ol style="list-style-type: none">1 “地域がステージの学び”の充実2 幼保小中高でのつながりを大切にした教育3 地域・外部人材とともに創る教育の充実	

II 平成31年度 七生緑小学校の学校経営方針

上記の平成31年度日野市教育委員会の基本方針を受け、以下の通り、日野市立七生緑小学校学校経営方針を定める。

1 平成31年度 七生緑小学校 経営目標

笑顔と優しさのあふれる、個性^{いのち}輝く児童の育成

- 【めざす児童像】
- ◎ やさしい子 (思いやり、助け合い、励まし合い)
 - かしこい子 (深く考える、判断する、解決する)
 - たくましい子 (やる気、粘り強さ、健康な身体)
- 【めざす学校像】 生き生きと個性^{いのち}輝く子供が主役の楽しい学校
- 【めざす教師像】
- すべての“いのち”を守り、育む教師
 - 子供一人一人を大切にした温かい学級をつくる教師
 - 地域をステージにした教育活動を展開できる教師
 - 特別支援教育にかかわる専門的な知識・技能を身に付けた教師

2 学校経営目標を達成するための基本方針及び具体的な方策

- 児童自ら課題を見付け、探求し、協働して考えを深め合いながら課題を解決していく「学びの循環」の中で、さらに「表現力」を高めていく、「生き生きと個性輝く子供が主役の楽しい学校」をつくる。その実現のために、地域・保護者との連携を強め、学校・保護者・地域と共に子供たちを育む体制づくりを築く。
- 児童理解を基盤とした児童一人一人に合った多様な学びを実現するため、あらゆる場面で「すべてを包み込む教育」を実践する学校をつくる。そのために、学習指導・特別活動の指導・生活指導等全ての教育活動、保護者・地域との連携において、特別支援教育を活躍する。

(1) すべての“いのち”が輝き、よろこびあふれる未来をひらく教育の推進

- 特別活動や道徳、総合的な学習の時間を中心に、互いに思いやり助け合う態度を育て、様々な人とかかわる体験を重ねることにより、自他の“いのち”を大切にし、自己肯定感を高める教育活動を実践。
また、子供たちから発信する「いのち」の取組をさらに進展。
- 学校を核に、保護者・地域が一体となったサポート体制の充実

- ・ 年間指導計画に基づく、各学年・あおぞら学級における「いのち」の取組 ※別紙年間指導計画
- ・ 2019年度は、昨年度「児童会生徒会サミット」「プレゼンテーション大会」「いのちの輪・意見交換会」参加の成果を学校全体に広げ、子供から発信する「いのち」の取組
- ・ 2019年度は、「展覧会」や「道徳授業地区公開講座」等の学校行事、PTA主催行事等で意図的に「いのち」をテーマに設定し、学校、保護者、地域全体で「すべての“いのち”が輝き、よろこびあふれる未来をひらく教育」を推進
- ・ C4th上の「いのちのプロジェクトフォルダー」に実践を蓄積。同時に、掲載のアイデアを実践に活用
- ・ 校内委員会と、日野市発達教育支援センター(エール)、子ども家庭支援センター、わかば教室、スクールソーシャルワーカー、巡回相談員、発達心理士等との連携、協働
- ・ 不登校児童ゼロを目指した一人一人の状況、特性、環境に応じた生活指導
- ・ 特別の教科「道徳科」の充実を中心とする「いのちの教育」
- ・ 養護教諭、栄養士、学校医が連携しての的確なアレルギー対応
- ・ 「七生緑小学校自主防災会」と連携した防犯、防災体制の構築

(2) 働き方改革に対応した効率的な組織運用と、プロジェクトチームによるフレキシブルな運用

- 職層や経験年数を加味した校務分掌組織で、ワークライフマネジメント(*1)。
- 単年度課題対応型のプロジェクトチームで、迅速かつフレキシブルな課題対応。

(a)年度当初より開始 地域の力活用プロジェクト 健康増進プロジェクト (Bone Project)

(b)臨機に対応 プログラム教育プロジェクト 3校(+1)連携事業推進プロジェクト

*1 業務の効率化やメリハリのある働き方で仕事の生産性を高めるとともに、創出された時間で仕事以外の生活を充実させ、そこから得られる充足感や多様なインプットをエネルギー源に、さらに付加価値の高いアウトプットを発揮する働き方。

- ・ 学校経営支援組織や非常勤職員の有効的活用による職務負担軽減
- ・ 学校全体で閉庁日を設定、学年・専科で定時退庁日を設定。タイムカードの導入による勤務様態の見直し
- ・ AI技術を活用した採点等の情報処理の導入や、「みんなの教材バンク」等の蓄積情報の有効活用
- ・ 若手とベテランと組み合わせたチームで効率よくルーティンワーク。個人の持ち味を生かしての課題対応

(3) 一人一人を大切にされた多様な学びの実現

- 一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びへの転換を図る。児童自ら課題を見つけ、探求し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく「学びの循環」を実践。

- ・ 全教育活動のUD化、「ひのスタンダード」、児童理解を基盤とした授業づくり・環境づくり【校内研究】
- ・ 多様な学び方を設定、一人一人の学びの充実
- ・ あたたかい居場所のある学級経営
- ・ 意図的・計画的な指導(実態把握、ねらいと見通しの明確化)
- ・ 学習規律の徹底(持ち物の確認、机上整理、チャイム着席、授業規律)
- ・ 算数習熟度別少人数指導「東京方式」によるきめ細かい指導と評価方法の工夫
- ・ 保護者の協力を得て、「家庭学習の手引き」「家スタ」を有効活用。生活習慣、学習習慣を定着化し、学ぶ力を向上
- ・ 保護者との連携で、「かしのきシート」の有効活用
- ・ 保護者向け「ステップ教室」「リソースルーム」活用の広報及び理解促進、指導の充実
- ・ 「学ぶ力向上推進委員会」の成果を生かしたカリキュラム・マネジメントと、「ひのっこ教育21開発委員会」の研究成果を生かした指導法の工夫
- ・ 学びのツールとしてのICT機器の効果的活用。メディアコーディネータと連携した指導の充実

(4) 地域をステージとする学びの充実と幼保小中・特別支援学校とのつながりによる教育の実現

- 地域をステージとする学びを充実させ、保護者・地域とともに創りあげる教育課程を創造
- 幼稚園・保育園、近隣の小中学校、七生特別支援学校とともに地域共生社会を築くべく、つながりによる教育を展開

- ・ 自分たちの住む地域や社会を知り、よりよくするために何をすべきかについて、保護者・地域とともに考える活動の推進
- ・ 「歩こう 調べよう ふるさと七生」等を活用し、日野の歴史や文化等を学ぶ活動を充実
- ・ 学校、保護者、地域が、みんなで創りあげていく教育活動を推進
- ・ 地域の多様な人材とともに、授業を創造
- ・ 七生の地域のさらなる共生社会の進展を期して、近隣の小中学校、七生特別支援学校とともに、教職員の交流や児童生徒間の遊びの交流やリトミック的な音楽交流、図工美術作品の交流をさらに充実推進
2019年度は、さらに近隣の幼稚園、保育園と共生社会の実現に向けた連携を模索
- ・ 「地域の力活用プロジェクト」と中心に、具体的な在り方を検討

(5) 全教育活動において特別支援教育を実践

- 発達障害・学習障害などにより学校生活に困難さを感じている児童の早期発見、情報の共有化、教育相談、学習・生活指導、進路指導を迅速かつ組織的に実施
- 地域のパイロット校・七生特別支援学校との連携や、スクールカウンセラーと共同で行う SST (ソーシャル スキル トレーニング) の全学級実施により、特別な支援を要する児童への対応力を強化

- ・ 職員会や校内委員会等で、コーディネーターを軸に情報を共有化し、組織的に対応
- ・ 個別指導計画、個別の教育支援計画の作成、「かしのきシート (就学・進学支援シート)」の活用
- ・ 一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援【合理的配慮】
- ・ エール、子供家庭支援センター、わかば教室、児童委員等、関係機関との連携
- ・ スクールカウンセラー、リソースルーム、ステップ教室の有効活用
- ・ あおぞら学級担任、特別支援教室専門員、巡回指導教員、七生特別支援学校との組織的な連携による指導の充実
- ・ スクールカウンセラーと担任が共同で行う、SST の全学級実施

(6) 「表現力・発信力」をさらに伸長

- 「学校中で明るく美しい歌声を響かせることができる」という本校の強みを生かして、歌唱表現をはじめ様々な表現活動を意図的に設定し、日常的に表現する喜びを味わわせ、各学級を母体として児童の主体的な学びの循環を構築。培った表現力を各教科・領域へと拡充

- ・ 「主体的、対話的で、深い学び」を基盤としながら、表現力伸長の機会を意図的に設定。音楽的な表現で得た表現力、発信力をさらに他の教科、領域に拡げ活現

(7) 子供たちの健康を増進

- 健康増進プロジェクトを中心に、体を動かす楽しさや大切さを学校全体に拡げ、生涯スポーツを楽しむ態度を育成
- 同プロジェクトでは、健康につながる食生活についても保護者の協力を得て理解・啓発を推進

- ・ 体育授業の改善、休み時間や放課後における意義ある遊びの充実等により、体を動かすことの大切さや楽しさを実感させ生涯スポーツの考え方を理解、浸透
- ・ 体育科学生による「遊びボランティア」の実施
- ・ 東京オリンピック・パラリンピック教育の推進 特にパラリンピックのアスリートを招いての特別授業を実施
- ・ 体力調査分析に基づく、全校での継続的な体力向上のための活動 (持久走・なわとび・一輪車・竹馬・フラフープ等)
- ・ ロードレース大会やロープジャンプ大会等スポーツ行事に積極参加
- ・ 発達段階に応じた望ましい食習慣の形成、家庭や地域と連携した食育